

グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	タイ		
校内発表会	10月27日		(対象)	全校・ 学年	
学校名	県立沼津東高等学校	氏名	中田 幌大	学年	2

1 目的・応募理由

近年、グローバル化が進んでおり、多くの日本企業が海外にも進出しているという話を様々な場面で耳にしたことがある。そのため、私が将来海外で仕事をする可能性もあると考え、海外で働くことの楽しさ、魅力などを知りたいと思ったため応募した。

2 研修内容等

〈実施前研修〉

日時：令和6年7月20日

場所：静岡県庁

内容：海外インターンシップの内容説明
自己紹介
国内研修・海外研修の説明 など

〈国内研修〉

日時：令和6年7月25日

場所：ジャトコ株式会社

内容：会社紹介
工場見学
新規事業の紹介及び体験 など



〈国内研修〉

新規事業のジャトコ製ドライブユニットを搭載した電動アシスト自転車の体験

〈海外研修（企業見学）〉

日時：令和6年8月26日

場所：JATCO (Thailand) Co., Ltd.

内容：会社紹介
作業体験
食堂でのランチ
タイ人スタッフとの交流会 など



〈海外研修〉

食堂でのランチ（タイ料理）

※8月25日にタイへ渡航

※8月27日はバンコク市内研修を実施
（王宮・エメラルド寺院、暁の寺、涅槃仏寺、大理石寺院、アジアンティーク）

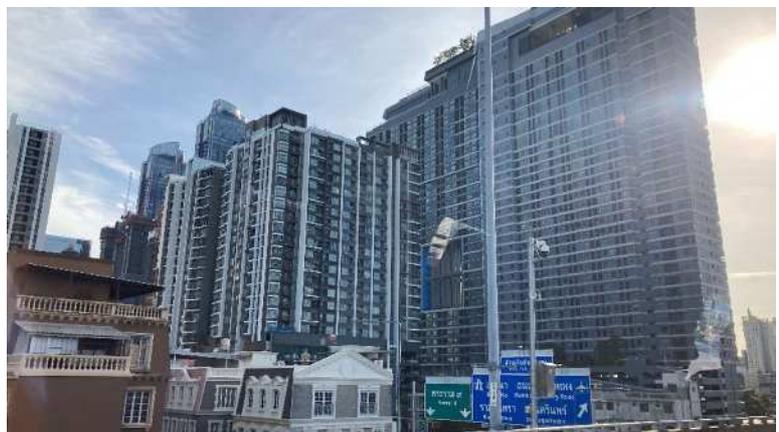
※8月28日に日本へ帰国

3 感想等

私は、今回の研修で社員の方に「海外勤務をする上で苦労したこと、よかったと思うことはあるか」という質問をさせていただいた。前者については、言語・文化の違いからすれ違いが生じることもあるということ、後者については、異文化に触れる日常が楽しいことだと教えていただいた。

実際、私もタイの店でお土産を買ったが、店員の方と英語で会話することが難しく、何も言わずにお金を払うだけになってしまうことが多かった。しかし、研修最終日には挨拶だけでもしようと思い、商品を渡すときは「こんにちは」、帰るときには「ありがとう」とタイ語で言うようにした。すると、言っている内容はわからなかったが店員の方が言葉を返してくださり、とても嬉しい気持ちになった。挨拶は些細なことではあったが、私は社員の方がおっしゃっていた異文化に触れる楽しさを少し感じることができたのではないかと思った。

私は、この研修に参加する前は「海外で働く」ということは、英語が苦手な自分にとって合わないのではないかと考えていた。しかし、研修を通してその楽しさ、魅力をたくさん感じることができ、私に「海外で働く」という新しい将来の選択肢を与えてくれた。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	タイ		
校内発表会	10月11日		(対象)	学年	
学校名	県立吉原工業高等学校	氏名	渡邊 齋	学年	2

1 目的・応募理由

海外で働くという事はどのような事かを知る。企業について知ることで将来のことを考え、進路意識を更に高めていきたい。今回の海外インターンシップの企業の中に吉原工業高校とも関わりの強いジャトコがあった。ジャトコはトランスミッションの製造を行っている機械系の企業で、自分が機械系に興味があったから、ジャトコの海外研修に応募した。

2 研修内容等

現地であるジャトコタイランドに到着して、初めに社長から会社の紹介をもらった。ジャトコタイランドの会社規模や事業内容などについて詳しく聞くことができた。その後、タイ人の社員の方に会社で行っている植物栽培の紹介をもらった。さらに、植物を実際に植える体験を行った。そして、工場の製造ラインの見学をした。工場見学が終わり、昼食をとりながらタイ人の方たちと談話をした。昼食後は、ジャトコタイランドの教育施設で新入社員用の安全教育や危険予知トレーニング、機械の使い方などを体験させてもらった。その後、ジャトコの技能大会で実施しているネジ締め競争を行った。そして、タイ人の社員の方にタイの文化や生活についての質問をした。最後にジャトコタイランドの日本人の社員の方たちに、海外で働くことについての質疑応答を活発に行った。



3 感想等

初めの会社の紹介のときに従業員の9割以上がタイ人の方たちだと言っていて、はじめの私の海外の日系企業のイメージだと海外でも日本人の従業員の方が多いイメージだったので、とても印象的であった。工場見学の時も説明して下さる方は日本人の方だったが、工場で作業している方々はほとんどがタイの方が作業をしていて、実際の会社の雰囲気を感じることができた。

タイのジャトコの敷地の中に広大な空き地があった。それについて、社長が半分はスポーツ大会を行っている土地で、もう半分はこれからの事業拡大のために工場をつくるための土地と言っていた。今ある工場をもう一つ建てることのできるぐらいの広さがあると言っていた。それを聞いて、スポーツ大会を開くのは地域の方たちとも触れ合うことを大事にしているのではないかと思った。郊外の広い土地を様々なことに利用していることが印象的であった。

会社で行っている植物栽培の紹介では、社員の方々が自主的に家から種などを持ってきて植えていると言っていた。日本のジャトコではレタスを育てていたけれど、タイのジャトコではバナナの木などが植えられていてタイと日本の気候の違いを感じた。

ジャトコタイランドの教育施設では床にある荷物の持ち上げ方や危険予知など、大変に細かいところまで教育をしており、新人社員は方々は全員その教育を受けると言っていたので、労働者への配慮が行き渡っていると思った。

ジャトコタイランドの社長が「電車が遅れないのは日本だけ」と言っており、タイだけに限らず外国の電車は遅れるのが当たり前と言っていた。さらに、テレビ番組も海外では番組表の時間どおりになることはないと言っており、海外のことを知ることによって日本が良い国だと改めて感じる事ができた。その後、他の社員の方がタイ人は日本人よりも仕事とその他の切り替えが早いと言っていた。タイ人の社員でリュウさんという方がいて、その方が休憩のときなどはとてもフレンドリーに話しかけて、賑やかな方だけど、会社の施設の説明をしてくださったときにはとても真面目に話をしていて、その経験をしていたので先程の話を聞いて確かにと感じた。



質疑応答の時に電気自動車がなぜ流行らなかったのかという質問があり、それに対して、新しい物を世の中に浸透させるために、「オタク層」「新しいもの好き」「富裕層」「一般層」の4つの層の人をターゲットにする必要があったが、途中で伸び悩んだため流行らなかったという回答が印象に残った。

今回、ジャトコという企業に研修をさせて頂き、日本の労働環境と海外の労働環境の違いやそもそも会社で働くことについて学んだ。将来自分が就職活動をするときの参考になるような体験ができて良かった。そして、企業で働いているところを実際に見学して、自分の進路意識が研修を受ける前に比べて非常に高まった。また、タイ人の方とのコミュニケーションを通じて、海外への関心が高まり、英語などの語学の勉強を頑張ろうと改めて思った。

グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ		訪問国	タイ	
校内発表会	12月24日		(対象)	全校・学年	
校名	県立科学技術高等学校	氏名	村上 慧	学年	2

1 目的・応募理由

私が本プログラムに応募した理由は、元々海外留学や移住に興味があったからです。留学に関する情報を調べている中で、静岡県が高校生を対象に県内企業・海外拠点でインターンシップを実施していることを知り、是非参加してみたいと思いました。研修先が二輪車の製造を手掛ける企業やホテル経営の企業などいくつかの企業がある中で、自動車が好きで私はオートマチックトランスミッションを製造しているジャトコ株式会社に興味がわきました。

この企業について調べていくなかで、電気自動車の普及に伴い従来のトランスミッションがどのように使われていくのか、国によって新たな技術への取り込み方の違いなど実際に自分の目で見たいと思い応募しました。

2 研修内容等

実施前研修

研修日時 令和6年7月20日（土） 10時から15時まで

研修場所 静岡県庁別館7F 第四会議室C

国内研修

研修日 令和6年7月25日（木）

研修場所及び研修時間 ジャトコ株式会社 11時40分から17時まで

海外研修

研修期間 令和6年8月25日（日）から28日（水）まで

研修日及び研修場所

- 1日目 スワンナプーム空港到着、その後ホテルへ
- 2日目 ジャトコ株式会社タイランド社
- 3日目 バンコク市内研修、その後空港発、日本へ
- 4日目 日本到着

国内研修では、富士市にあるジャトコ株式会社本社で企業概要・生産工程・新事業への取り組みの説明を受けました。説明の後は、海外の自転車企業と共同開発中のモーター付き自転車に試乗させていただきました。スムーズな変速で、乗り心地も良好でした。その他にも驚いたのは就労支援事業に関わっていたことです。自動車部品に関連する事業だけでなく、広大な敷地を活用し野菜を栽培しているところに、地域貢献に対する情熱を感じました。

海外研修では、タイのバンコク市近郊にあるジャトコ株式会社タイランド社に訪問し、企業概要の説明を受けた後、ネジの仮留め体験や植物の栽培作業を行いました。タイで働いている日本人スタッフは650人中17人で、社長をはじめ人事や会計のほか製造部門で活躍されていました。

工場内は風の通りが考えられた建物の設計や、



バザーファンを設置するなど快適な空間を作り出していました。また、敷地内にサッカーグラウンドがあり、年2回他社と交流戦を行っているとのこと、働き手を大切にしていると感じました。

ジャトコ株式会社では、主に日産や三菱、SUZUKI の製品を製造しており、日産の KICKS e-power に搭載されている、Motor and Gearbox を製造しているのは今回訪問したタイの工場だけという説明でした。部品の音を抑えれば騒音を抑えることができるので、ジャトコタイランド社にはドイツ製の世界に数台しかない、仕上げを行う機械があるのが特徴的でした。

3 感想等

私はこの事業を通して、グローバルに働くには様々な国や地域の労働環境を知り、受け入れることが重要だと感じました。タイの拠点は富士市の拠点より涼しく感じたり、しかし富士市の拠点のほうが生産の自動化が進んでいたりなど富士市の拠点とタイの拠点の労働環境をただ単に比べてみてしまうと、富士市の工場では、広い土地を活用しレタスを植えていましたが、タイの工場の畑では、スタッフが好きな作物を好きに植えて良いようになっていて、葉物野菜をはじめ、バナナやココナッツなど様々な植物が育てられていたのが印象的でした。

私はタイ人の考え方が仕事においてどのように影響するのかが気になっていました。なぜかという、国内研修を行った際、タイに駐在経験のある方からタイのマイペンライという考え方を伺っていたからです。

実際には、タイ人スタッフは普段からコミュニケーションをとってくださったり、優しく接して下さったりする一方、仕事では気持ちが切り替わり真剣に仕事に取り組んでいたことから、あまり、マイペンライという考え方が仕事に影響している感じは見受けられませんでした。しかし、話を伺ってみると私たちが工場に到着した際、準備が全然できてなく、慌てていたという話を伺って非常に驚きました。

ネジの仮止め作業体験では、タイムは1位でしたが確かめ作業で1つミスをしてしまい、惜しくも2位になってしまいました。非常に悔しいと思った反面、タイムだけでなく確認作業をいかに大切にしているのか、重要になってくるのかを知ることが出来良い体験になりました。

グローバルに働く際には、様々な国の労働環境を比べてしまうかもしれませんが、このインターンシップ事業で様々な国と地域にはそれぞれの労働条件があったり地域に特色があったりし、そのような背景があることで労働環境が変化してくることを知り、私たちがこれからグローバルに働く際にはそれらのことを十分に理解していかなければならないと考えました。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	タイ		
校内発表会	10月9日		(対象)	全校・学年	
学校名	県立島田商業高等学校	氏名	秋野 帆香	学年	2

1 目的・応募理由

私が今回、このインターンシップに参加しようと思ったきっかけは2つある。

1つ目は海外に興味があったからである。私は今まで海外に行った経験がなく単純に日本以外の世界を体験してみたいという気持ちが強くあった。日本との文化の違いや国民性など気になることが多くあった。また、それを実際に自分の目で見て肌で感じたいと思いインターンシップに参加しようと思った。

2つ目は自分から何か新しいことに挑戦してみたいと思ったからである。私は、今まで何かに一生涯懸命になったり胸を張って頑張ったといえるものがなかった。だから、高校生のうちに自分から何かにチャレンジしてみたいと思った。そんな時に海外インターンシップの話聞いてこれなら自分から挑戦できると考え参加したいと思った。

これらの理由から今回の海外インターンシップに参加しようと思った。

2 研修内容等

国内研修では、実際に変速機を作っている工場を見学させていただいた。工場にはエアコンがなく、夏場は暑くとても大変な仕事をしてくださっていると肌で感じることができた。ライン一つ一つで丁寧に説明をしていただいたのでどのようにして変速機が出来上がるのかを知ることができた。また、今開発中のものを見せていただいたりジヤトコさんが作っているトランスミッションを使った電動自転車に乗せていただいたりした。車に使うだけのトランスミッションを作るのではなく、そこから新たなものを生み出す力に感動した。

海外研修では、タイの方とタイで働いている日本人の方と交流をした。タイの方はとてもフレンドリーで、研修の時以外でも気さくに話しかけてくれた。そのおかげで、私たちもリラックスして研修を行うことができたと思う。実際にジヤトコさんが新入社員さんたちに行っている研修を受けた。そこでは、機械が止まったときの対処の仕方やごみの分別の仕方などたくさんのお話を説明してもらった。働いている人の気持ちになって、研修を受けることができた。また、この研修を受けて知らないことをしっかり教えてもらうことの大切さに気が付いた。

今回の研修で一番記憶に残っていることは、水平栽培体験である。水平栽培とは土を使わずに野菜を育てることである。私はこの栽培方法を初めて知った。土を使わず植物を育てることはとても面白く興味深かった。簡単な作業かと思っていたら、ピンセットを使って種を植えたり、種を植える向きが決まっていたりとても繊細な作業で驚いた。なぜ、水とスポンジと肥料だけで植物が成長するのか気になったとともにいつか自分で育ててみたいと思った。

ねじ早入れ対決では、タイの工場が一番早い人たちと一緒に体験をした。ねじを入れている姿を見て熱心に働いているのが伝わった。自分で体験することでねじを入れるということだけだけど、大変だということをもっと知ることができた。



3 感想等

私は今回のインターンシップに参加して自分自身がすごく成長できたと実感することができた。何もかもわからないところで過ごすことは初めての体験で驚きの連続だった。タイ語で何を言っているかわからなかったけど表情や声の感じからいいことなどを感じることができた。言葉が話せないとだめだと思っていたけれど実際はそんなことなかった。

私がタイに行って一番関心を持ったのはタイ人の人柄である。タイの人たちはみんな優しく、フレンドリーだった。街を歩いているだけでいろんな人が話しかけてくれてびっくりしたとともにとてもうれしかった。日本ではそのような体験はしたことなかったのでとても新鮮だった。

全体的な感想としては今回このインターンシップに参加できてよかったということである。もし、今回参加していなかったらまだ挑戦することができていない自分だったと思う。そんな自分を変えることができて本当に良かったと思っている。今回のこの経験から挑戦することの大切さと勇気を学んだ。これを機にこれからもいろんなことに自分から挑戦して面白く楽しく充実した生活を送りたいと心の底から思った。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム		高校生海外インターンシップ		訪問国	タイ	
校内発表会		12月23日			(対象)	全校・学年
学校名	浜松城北工業高等学校	氏名	木村 早希	学年	2	

1 目的・応募理由

この海外研修の募集があったとき私は「海外研修に行きたい!」という強い気持ちを抱くとともに、研修先がなぜタイ王国（以下タイという。）なのかという素朴な疑問を持ちました。そこで私はタイについて調べてみました。タイは東南アジア諸国中心に位置し、首都バンコクの空港からはアジアだけでなく中東や欧州、アフリカなどへの便も出ています。タイは輸出拠点としては利便性が高く、特に近年は日本企業からタイへの投資が多く、タイへの投資総額の三分の一になったこともありました。経済発展を遂げたタイには自然や歴史、工芸や文化など多彩な魅力があり、研修先がタイになったことが理解できました。私自身もタイへの興味が高まり、タイに行き、文化や国民の人柄、そして日系企業によって日本のものづくりが海外で成功し、世界で活躍している様子を体感したいという気持ちが一層強くなったからです。また、個人的に映画や父の影響で車に関心をもっており、トランスミッションを専門的に学びたい、自分が持つ疑問について、専門的な方の意見を伺いたいと思ったからです。

2 研修内容等

一日目

- ・BKK 到着
- ・サボイにてタイ風海鮮の夕食
- ・ホテル近くのショッピングモールでお買い物（自由行動）



二日目

- ・JATOCO (THAILAND) CO. LTD にて研修
工場見学、ボルトを用いた作業体験、
安全に作業を行うための説明等
- ・美里にてとんかつセットの夕食（日本食）
- ・ホテル近くの町並みを観察、現地のスーパーや屋台を巡る（自由行動）



三日目

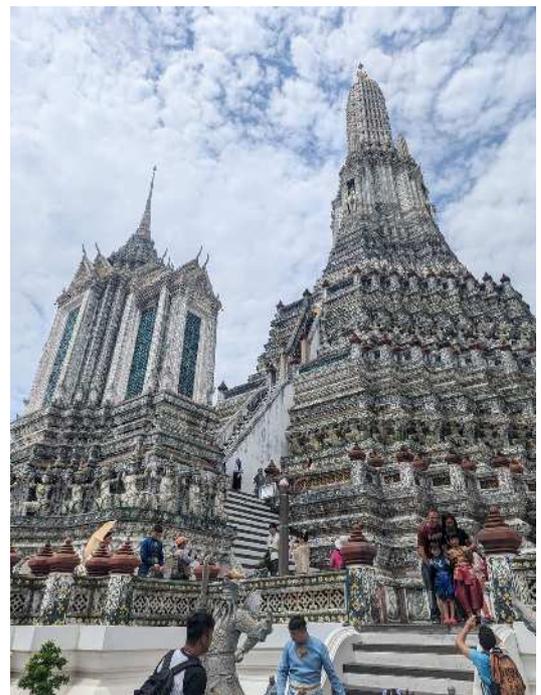
- 〈バンコク市内観光〉
- ・王宮・エメラルド寺院

- ・暁の寺
- ・涅槃仏寺
- ・バイヨークスカイにてビュッフェランチ
- ・大理石寺院
- ・アジアンティーク（市場）
- ・コカ・スラウォン店にてタイスキの夕食

ホテル：マンダリン・ホテル・マネージメント・バイ・センターポイント
 ※朝食はホテルにてビュッフェ

3 感想等

4日間という長いようで短い期間の中、とても刺激的な毎日を過ごしました。トイレの文化、食べ物は残しても良いという文化、宗教的理由による文化など、日本と全く違う文化が数多くあり最初は戸惑いました。ですが今回の海外研修では日本での固定概念を捨て、タイの文化を学びたい、体感したいと思い、視覚的なコミュニケーションを用いて、現地の多くの方とコミュニケーションを取ったり、好き嫌いせずいろんな食べ物を味わって食べてみたりと海外に行くことで自分の殻を破り、自分の新たな一面を得ることができました。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	タイ		
校内発表会	9月25日		(対象)	全校・ 学年	
学校名	静岡雙葉高等学校	氏名	木川 響稀	学年	2

1 目的・応募理由

工業系の進路、海外で働くことに以前から興味があり、応募を決めました。私は将来、世界の人々が毎日をより快適に安全に過ごせるようなシステムや技術の開発に関わりたいと考えており、インターネットが普及し様々なものが進化している現在やこれからで、すべての人を置き去りにせず、年齢や職業や国籍に関係なくすべての人にとって生きやすい世の中にすることに尽力したいと思っています。また、グローバル化が進み日本国内で仕事をする際も外国人の方と関わる機会は多いと思うし、外国で働くこともあるかもしれないので、多様なバックグラウンドや言語の壁を超えてたくさんの人と考えを共有し一緒に仕事ができるようになりたいと思っています。このタイへのインターンシップは実際に海外で働いている日本人や現地で働いている方と関わったり、最先端の技術に触れたりして、少しでも文化や考え方、仕事に対する姿勢を学び、自分の目標に近づき、将来目指したい姿を具体的に思い浮かべることができるようになりたいと思いました。また、自動運転、ハイブリッドカーなどの進化の過程にあり、高齢者ドライバー等による自動車事故などの課題を抱える自動車業界について技術的な面でも学びを得たいと思っています。

2 研修内容等

国内研修では、ジャトコ本場で、会社概要・業務内容・社会貢献活動の説明を受ける。

タイに赴任経験のある社員の方からタイについて説明、注意をうける。ジャトコ第二地区工場の見学をする。新規事業、自動車のトランスミッション技術



を用いた電動アシスト車いす、自転車の試作機を見、自転車にのらせていただく。

海外研修では、ジャトコタイランドで、社長からジャトコタイランドや自身の経験についてお話をうかがう。社会貢献活動として行われている、植物を育てている会社

の庭の見学、水耕栽培を体験する。工場見学、工場内の説明をしていただく。危険なことが工場内で起きた時の対処法や防止方法を学ぶ、安全道場の見学、ネジ締め体験をする。タイ人の社員の方、日本から派遣された方にご自身の経験の話を聞いたり、質問をしたりする。

3 感想等

お話ししてくださった方全員がこの仕事にやりがいを感じ、楽しんでいるのだろうなと思った。今まで海外転勤は大変でつらいことが多いイメージだったが、毎日が出会いと発見の連続だという海外派遣も楽しそうで魅力的に感じた。特にタイの工場では、全員が働き環境づくりや、男性が多数である状況で女性目線での気づきがあるということをお大切にしている、自分が女性ということ、男性の多い状況で働くことには少し不安はあったが、このような考えを持っている会社だったら安心して働けると思った。ジャトコは日本でもタイでも、仕事もプライベートも充実させることができると思った。今回この企画に参加すること今回この企画に参加することが出来たことをとてもうれしくありがたく思う。

静岡にある企業が世界で活躍していることを、実際に見て、体験して、そこで働いている人がどんな思いをもって仕事をしているかを知れたことは私にとって大きな財産となった。また将来について考えるきっかけとなり、ジャトコのような車関係の企業で働くことや、海外転勤をすることもめざしてみたいと思うようになった。一緒に行った5人と出会えたことも、タイに行ってきたくさんの人と関わったことも自分一人ではできない事で、本当に良い経験になった。この経験を生かし、社会に還元することができるよう、これからもさまざまなことに挑戦し、努力を続けていきたいと思う。

